

『パウロの願い②』

'22/06/26(会員総会)

聖書箇所:エペソ人への手紙 3章 17節(新約 p.376)

皆さんは、こんなことをお考えになったことはありません? 「もっと、神様が私に強く働いてくださって…、私が罪を犯したり…、様々な間違いを犯したりすることがないようにして下さったら良いのに…」なんて…。こんなことを言いますと、特に、まだイエス様を信じておられない方などは、「クリスチャンとは、何と危険な思想を持っているのか…。神によって洗脳されるようなことを、自ら願っているのか…。」というようなことを思われるのかも知れません。しかし、実際のところは、そうではありません。聖書のみことばを学んで、信仰が成熟すればするほど、私たちの選択や考えの幅は広がっていきます。所謂…、洗脳やマインドコントロールなどと言われるものは、全くその逆で、深みにはまっていけば行くほど…、彼らの自由や選択といったものが無くなっていて、どんどん窮屈になっていくでしょ?

しかし、真の神様の教えはそうではありません。ガラテヤ 5章のみことばが教えるように、真の神様を知って…、人間の本来歩める道を知ることによって、益々、生き方の幅が広がっていくのです…。そういったことに関しては、多分、7/10の礼拝で学びたいと思いますが、パウロが願ったのは、まさにそういったことでした。つまりは、神様が、私たちの思いや感情までも支配してくださって…、イエス様が感じられたように私たちも感じるようになっていく…、イエス様が愛されたものを私たちも愛するようになるし、イエス様が憎まれたものを私たちも憎むようになっていく、ということなのです。

命題:パウロが父なる神に祈っていた内容とは?

実は、そういったようなことを、あのパウロ自身が経験していました…。パウロが、自分のそういった経験が自分だけではなく、もっと多くのクリスチャンが経験してくれることを期待して…、こんな願いを神様に捧げていたのです。先週から、私たちは、エペソ書に記されてある、パウロが父なる神様に祈っていた内容について、一緒に学んでいます。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、エペソ 3:14-17をお開きください。

I・救われたクリスチャンが、益々、成長して行くように!(14-16節)

まずは、先週に学んだ、パウロの願いの第1番目のものをすごく簡単に復習させてください。エペソ 3:14-16で、パウロは、神が私たちに与えてくださった内なる人が、神様によって強くされますように…、つまりは、救われたクリスチャンが、益々、“成長”していくことを願っていました。エペソ 3:14-16には、こう記されています。

14 こういうわけで、私はひざをかがめて、

15 天上と地上で家族と呼ばれるすべてのものの名の元である父の前に祈ります。

16 どうか父が、その栄光の豊かさに従い、御霊により、力をもって、あなたがたの内なる人を強くしてくださいように。

この箇所、パウロは自分自身の祈りの姿勢について教えてくれていました。14節の、『こういうわけで、私はひざをかがめて…』という部分がそうです。これは決して、祈っている時の…、単なる姿勢だけの話ではありません! 私たちが真の神様の前に立たされ、その神様を思う時、間違いなく、私たちはその神様の前にへりくだり…、ひざまずくような思いが与えられます。それは、実際にひざをつかどうかの話ではなく…、私たちの心の中の態度のことです。私たちが真の造り主なる神様の偉大さを知れば知るほど、その神様がどれほど、私たちのような者を愛して…、私たちのことをたくさんの恵みでもって満たしてくださっているか、ということ私たちが理解すれば、私たちは、この神様の前にへりくだるしかありません。そうでしょ?

私たちがイエス様を信じて間も無い頃、恐らくは、それまでの祈りと同様、私たちは自分勝手に、わがままな祈りを捧げていたのではないのでしょうか? しかし、そんな私たちでも、真の神様に関する理解が増して、私たちの信仰が成長させられていくと、私たちの祈りというものも、間違いなく、変わっていくはずですよ。

さて、そんなパウロが願ったのが、16節、『どうか父が…あなたがたの内なる人を強くしてくださいように…』という部分であります。パウロが願ったことは、ここにあるように、私たちの、『内なる人』が強くされることでした。それは言い換えると、クリスチャンの皆さんに与えられた、新しい性質というものが益々、成長させられていき…、御霊によって、さらに強められていくということなのです。

そういったことによって、私たちの信仰生活は、様々な誘惑や問題に対して、段々と勝利できるようになっていきます…。だから、私たちが先週見たペテロやヨハネは、様々な問題に当たっても、恐れることなく、キリストの証しを大胆になしていくことができたのです!

II・キリストがクリスチャンの心を支配して下さるように!(17a節)

そういったことが、先週の礼拝で学んだことでした…。そうして次に、パウロが願ったことは、私たちクリスチャンの心が、益々、私たちの主であられるキリストによって“支配”されていきますように! ということでした。どうぞ、17節の前半部分をご覧ください。

17 こうしてキリストが、あなたがたの信仰によって、あなたがたの心のうちに住んでいてくださいますように。…

①間違った理解⇒このことは救われて、しばらく後に起こる。

先程の、パウロの1つ目の願いは、「神様が、私たちクリスチャンの内なる人を強くしてくださいように…」というものでした。そして、次の願いは、「キリストが、私たちクリスチャンの心の内に住んでいてくださるよう…」というもの。何だか…、こんな風に、別の願いとして挙げられると、これらのことが、まるで、別々に起こるかのように感じてしまいますよね? 実際、あるクリスチャンの方々は、これらは、別々に起こることだと考えます。つまり…、①まず、御霊なる神様の内住が与えられ…、②そのことによって、内なる人が強められ…、③そうして、キリストが心のうちに住んでくださるようになるのだ、と考えるのです。

しかし、本当にそうでしょうか? 実は、そう考えてしまうと、聖書の別の箇所と矛盾するようになってしまいます。例えば、ローマ 8:9-10をご覧くださいと、こうあります。『9 けれども、もし神の御霊があなたがたのうちに住んでおられるなら、あなたがたは肉の中にはなく、御霊の中にいるのです。キリストの御霊を持たない人は、キリストのものではありません。10 もしキリストがあなたがたのうちに住んでおられるなら、からだは罪のゆえに死んでいても、霊が、義のゆえに生きています。』⇒このように、パウロは、『神の御霊』、つまり、「聖霊」のことを、『キリストの御霊』と言い換えています。そして、「その聖霊があなたがたの内に住んでいる」ということを、10節では、『キリストがあなたがたのうちに住んでおられるなら…』というように言い換えているのです。

つまり、聖書の中で、御霊とか…、聖霊とか言われるものは、実は、キリストの御霊…、言い換えると、キリストから派生したようなものであると言うのです。…ですから、皆さんもよくご存知のように、例えば、ヨハネ 14:16-17をご覧ください。『16 わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともに住んでおられるためにです。17 その方は、真理の御霊です。世はその方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです。しかし、あなたがたはその方を知っています。その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちに住んでおられるからです。』⇒この話の流れは、イエス様が弟子たちの前から居なくなる代わりに、『助け主』が与えられるという約束が話されています。それが、17節で、『真理の御霊』、つまりは、聖霊なる神様であると

言うのです。

この 16 節をご覧くださいと、『もうひとりの助け主』というくだりがありますでしょ。ここでは、「別の…」というギリシヤ語の言葉が使われているのですが…、実は、ギリシヤ語には、「別のもの…」という概念を表わす言葉が2種類あるのです。1つは、「ἄλλος」(アッロス)で、もう1つは、「ἕτερος」(ヘテロス)と言います。これらの言葉がどう違うのかと言いますと、アッロスの方は、別のものではあっても、「同質のもの、同じ種類のもの」を指す場合に使い、ヘテロスの方は、「全く別のもの、違った種類のもの」を指す場合に使われる言葉なのです。

少し専門的な話になってしまっただけで申し訳ないのですが、大事な話なので、どうか集中して聞いてください。分かりやすく説明すると、こういったことなのです。例えば、皆さんが、ケーキ屋さんで、ケーキを頼むとします。そこで、「とても美味しかったです！もう1つ、別のケーキをください！」と頼んだとします。そこで、もし、「別の…」という言葉で、「アッロス」の方を使っただとすると、今食べたのと全く同じ味…、全く同じ成分で構成されたケーキが運ばれてきます。しかし、そこで、「ヘテロス」の方の言葉を使うと、今食べたのとは違うケーキが運ばれてくるという感じです。つまり、ここヨハネ 14:16 で使われている「別の…」という言葉が、「アッロス」なのか、あるいは、「ヘテロス」なのかということで、大きく意味するところが変わってくるのです！

もう既に多くの皆さんが察しておられるように、ここヨハネ 14:16 で使われている言葉は、「アッロス」の方です。つまり、イエス様は、ご自分の代わりに下ってくる聖霊が、「自分と全く同じ性質」を持った存在であるということ、ここで話しておられるのです。だから、イエス様は、「その聖霊が自分の代わりとなる…」という話をしておられるのです。つまり…、聖霊とイエス・キリストとは、全く同じ性質を持っておられるのです。だから、このヨハネ 14:2 で、イエス様は、『…あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。』というようなことをおっしゃっておられるのです。だって、その聖霊が、イエス様とは全く別の…、違う存在ならば、イエス様の代わりになんてなりっこないじゃないですか？…そうでしょ！

それだけではありません！ここヨハネ 14:8-10 をご覧くださいと、『8 ピリポはイエスに言った。「主よ。私たちに父を見せてください。そうすれば満足します。」9 イエスは彼に言われた。「ピリポ。こんなに長い間あなたがたといっしょにいるのに、あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください』と言うのですか。10 わたしが父にあり、父がわたしにおられることを、あなたは信じないのですか。わたしがあなたがたに言うことばは、わたしが自分から話しているわけではありません。わたしのうちにおられる父が、ご自分のわざをしておられるのです。』⇒ここでイエス様は、「父なる神様を見せてください！」と願うピリポに対して、「わたしを見た者は、父なる神様を見たのも同然だ！」というお答えをなさいます。父なる神様とイエス様もまた…、本質的には全く同じなのです！

どうか、今度は、1 コリント 2:11-16 もご覧ください。『11 いったい、人の心のことは、その人のうちにある霊のほかに、だれが知っているでしょう。同じように、神のみこころのことは、神の御霊のほかにだれも知りません。12 ところで、私たちは、この世の霊を受けたのではなく、神の御霊を受けました。それは、恵みによって神から私たちに賜ったものを、私たちが知るためです。13 この賜物について話すには、人の知恵に教えられたことばを用いず、御霊に教えられたことばを用います。その御霊のことばをもって御霊のことを解くのです。14 生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわかまえるものだからです。15 御霊を受けている人は、すべてのことをわかまえますが、自分はだれによってもわかまされません。16 いったい、「だれが主のみこころを知り、主を導くことができたか。」ところが、私たちに、キリストの心があるのです。』

⇒この、『キリストの心』と表現されているものが、実は、聖霊なのです。ここで教えられてあるように…、確かに、私たち人間の心の中のことは、その人の内にある霊…、つまり、その人の魂以外には分かり得ません。それと同じように、神様のみこころも、神様の霊でないと、その神様のみこころは分かり得ません…。だから、神様は私たちに神の霊…、つまり、聖霊を与えてくださったのです！それが、ここでは最後 16 節で、『キリストの心』と表現されているのです。つまり、聖霊とは、私たちに、イエス様のことを教えてくれるような存在だと言うのです。

皆さんがご存知のように、聖書が教えてくれている真の神様とは、三位一体の神様です。つまり、①父なる神様がおられ…、②子なる神様のイエス・キリストも全く同質の神様で…、そして、③聖霊なる神様も、皆、等しく神様であられます。それら、すべては、別々の神様なのではなく、皆、本質的に1つなのです。だから、イエス様は、自分の代わりに送られてくる聖霊のことを、「アッロス」という言葉を使うことによって、自分とは別の存在ではあっても、全く同じ性質を持つていとおっしゃられたのです。

皆さんは覚えてくださっていますでしょうか？実は、私たちの教会のパテスマクラスのテキストの中、「神について」という項目のところには、このような記述があるのです。「私たちは、万物すべてを創造され、それを完全な知恵と力で治めておられる唯一の神を信じる。神は永遠に、父、子、聖霊の三位において存在しておられるが、それぞれは本質において同一であり、力と栄光を等しくする、すべての被造物により崇拝を受けるに値する唯一のお方であると信じる。」とあります。つまり、私たち人間からすると、①父なる神様も、②子なるイエス様も、③聖霊も、それぞれ働きや特徴は違って…、皆、同じ神様であり、本質的には全く同じ…、唯一の神様なのです！

ですから、話が少し長くなりましたが、私たちが真唯一の神様を信じて…、救われたその瞬間に、私たちの内に聖霊なる神様が入ってくださり、それと同時に、キリストも私たちの心の内に住んでくださるのです。だから、今日のみことばであるエペソ 3:17 には、『あなたがたの信仰によって…』とあるのです。…と言いますのは、私たちに与えられた信仰が、そういったことを初めて可能にしたからです。

②正しい理解⇒このことは、救われると 同時 に起こる！

じゃあ、どうして、パウロは、これらのことを別々の願いのような感じで挙げているのでしょうか？…簡単に言いますと、この2つ目の願いは、1つ目の願いの具体的な説明である、私は思います。…と言いますのは、1つ目の願いであった、私たちの新しい性質がもっと強くされていくということだけでは、十分な説明がなされていないからです。恐らく、パウロは言いたかったのだと思います、「私たちの内に与えられた新しい性質とは、まさに、私たちの内に、イエス・キリストの人格が入り…、その影響が益々濃くなっていくことなのです！」って…。

そういったことは、ここ 17 節を学んでみると、更に確信が強められるように思います。ここ 17 節に、『キリストが…住んでいてくださいますように…』とありますが、この「住む」という言葉(κατοικῶ)は、一時的な滞在の場合に使われる言葉ではなく、「恒久的な定住を表わす」場合に使われる言葉なのです。しかも、この言葉は、ここで、不定過去(アオリスト)の時制で使われています。つまり、キリストが、私たちの心の内に住んでくださるというのは、ただ1度限りの出来事であって、ひとたび、私たちの心の内に住んでくださったならば、それからずっと恒久的に、定住して下さって…、決して、出て行かれないということ、みことばは教えてくれているのです。イエス様が、一時的に、私たちの心に住まわれるとか、時々だけ住まわれるということでは決して無いのです。

だから、マタイ 28 章の最後でも、イエス様が十字架と復活の御業の後で、弟子たちにこう約束してくださったでしょ？マタイ 28:20、『また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。』って…。このように、イエス様は、いつも、信仰を持って救われた私たちと共に居てくださっているのです。

また、このことは、いつも引用する、ヨハネ 10:28 でイエス様が約束してくださった…、『わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。』という、その教えをサポートしますでしょ？神様のなして下さる救いとは完全であって、決して、無効になったり…、取り消されたりすることはないのです。

だったら、何故、パウロは、そのことを神に願ったのでしょうか？イエス様を信じて救われた者の内に、イエス様がずっと住み続けてくださるなら…。どうして、敢えて、そんなことを神に願う必要があるのでしょうか？⇒それは、パウロが、このように救われたクリスチャンの姿を教えることによって…、小アジアのクリスチャンたちが、救いというものを正しく理解することができるためなのです。もしパウロが、これらの祈りを神様にだけ祈るつもりなら、わざわざ、こんな祈りの内容を手紙に書き記す必要なんて無いじゃないですか！パウロは、自分の祈りと言うか…、神様に対する願いを、小アジアの教会メンバーたちへの手紙に書き記すことによって、彼らが「救いに対する理解」を増していってくれることを願ったのです！

ここ 17 節には、『こうしてキリストが、あなたがたの信仰によって、あなたがたの心のうちに住んでいてくださいますように。…』とありました…。聖書の中で、心(καρδία)とは、単なる感情だけの座ではなく、私たちの人格、知性、思いの源であり…、時には、心臓を指すこともあったように、それこそ、いのちの中心でもあったし、その人のすべてを指したのです。だって、心とは、私たちの行動…、私たちを導く中心部分じゃないですか？そうでしょ！

つまりは、キリストが、私たちの行動や働きの根幹部分にいてくださって…、すべての動機の背後に居てください！ということパウロは願ったのです。クリスチャンとは、まさしく、そういった存在です。だって、皆さんがイエス様を信じた時、皆さんは、このキリストを愛し…、キリストに従っていこうと決心されたでしょ？

<励ましの言葉>

皆さん、ご存知ですよ？「クリスチャン」という呼び名は、「キリストの者」という意味です。英語でも、「christian」という単語の初め部分には、「Christ」という言葉が入っていますでしょ。…と言いますのは、キリストによって本当に救われた者たちは、いつもキリストのことを覚え…、いつもキリストを証ししようとし…、そうして、キリストが歩まれたように歩もうとするからです。

パウロは、ガラテヤ 2:20 でこう教えます。『私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。』⇒このように、クリスチャンとは、イエス・キリストと継ぎ合わされ…、キリストと一体とされた者たちのことです。だから、イエス様を信じて救われた私たちは、キリストと一体とされたということを、バプテスマという儀式でもって、この世に証ししようとするのです。

どうぞ、最後に、コロサイ 3:7-11 をご覧ください。『7 あなたがたも、以前、そのようなものの中に生きていたときは、そのような歩み方をしていました。 8 しかし今は、あなたがたも、すべてこれらのこと、すなわち、怒り、憤り、悪意、そり、あなたがたの口から出る恥ずべきことばを、捨ててしまいなさい。 9 互いに偽りを言うてはいけません。あなたがたは、古い人をその行いと一しょに脱ぎ捨てて、 10 新しい人を着たの

です。新しい人は、造り主のかたちに似せられてますます新しくされ、真の知識に至るのです。 11 そこには、ギリシヤ人とユダヤ人、割礼の有無、未開人、スクテヤ人、奴隷と自由人というような区別はありません。キリストがすべてであり、すべてのうちにおられるのです。』

⇒真唯一の神様…、つまり、イエス・キリストによって救われ、神のものとしてされたクリスチャンの皆さんは、私たちの模範であり、また、救い主でもあられるキリストに似た者へと、日々、変えられていくのです。そして、それこそが、まさにパウロだけでなく、神様の望んでおられることなのです。

まだ、イエス様のことを信じておられない皆さん…、あなたは、今の生活や人生に満足しておられますか？自分の生き方や尽きることのない欲望…、あるいは、先の見えない将来に失望してしまったことはありませんか？…この聖書のみことばが教えてくれている真の造り主なる神様は、私たちが罪の束縛と罪の裁きから救い出してくれます！でも、それだけじゃなくて…、真の神様は私たちに本当の希望を与え、神様と共に歩む…、新しい、第2の人生を与えてくださいます。どうか、真の神様のことを今一度、真剣に考えてくださって、できたら、1日も早く、このイエス・キリストを、あなたの救い主、人生の主(あるじ)として信じ、受け入れていただきたいと思います。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。